

事務事業評価シート2(一般事業)

1 基本情報

1 基本情報		事業番号		0370/502520/02/00		事業の種類		4	
年度	19	事務事業名		文化財運営事業		作成日	平成21年1月20日	重要度	4
予算事業名		文化財事業		担当部課名	生涯学習課				
政策名		愛着と生きがいを育むまちづくり							
施策名		文化財保護		実施計画への記載		無	主要事業の指定		無
根拠法規及び関連法規		文化財保護法、相生市文化財保護条例							
事業の目的	誰のために(具体的に)	市民							
	誰(何)を対象として	文化財							
	意図(どのような状態にしたいのか)	市内文化財の保護と活用を図ることが郷土愛につながる。							

2 事業の概要 Do

実施の概要		文化財を適正に管理し、市民の関心と理解を深める。				
活動実績	項目	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度計画
	文化財保護事業	件	9	9	9	9
	(清掃作業等)					

3 投入資源

		会計区分	一般会計			事業費単位:円			
インプット指標		17年度決算	18年度決算	前年比	19年度決算	前年比	20年度予算	前年比	備考
人員	課長以上職員	0.108	0.083	76.9	0.085	102.4	0.081	95.3	
	主幹以下職員	2.000	2.000	100.0	2.000	100.0	2.000	100.0	
	臨時職員	0.250	0.250	100.0	0.250	100.0		-	
支出内訳	人件費	19,313,480	18,540,417	96.0	18,777,027	101.3	17,921,572	95.4	
	事業費	1,611,139	2,339,000	145.2	1,367,845	58.5	2,040,000	149.1	
	合計	20,924,619	20,879,417	99.8	20,144,872	96.5	19,961,572	99.1	
財源内訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金			-		-		-	
	市債			-		-		-	
	その他			-		-		-	
	一般財源	20,924,619	20,879,417	99.8	20,144,872	96.5	19,961,572	99.1	
	合計	20,924,619	20,879,417	99.8	20,144,872	96.5	19,961,572	99.1	

4 評価指標

【有効性】

指標名1		感状山城跡入山者数(個人情報の高まりにより、登山名簿に記帳しない者の増加が見られる)							
指標説明(式)		30人×12ヶ月=360名							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	目標	360	360	100.0	350	97.2	300	85.7	
	実績	437	383	87.6	343	89.6			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

【効率性】

指標名1	人口1人当たりの文化財関連経費								
指標説明(式)	文化財関連事業費÷相生市の人口								
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	実績	49	46	93.9	42	91.3		-	

指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(19年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	1次評価(係長)	2次評価(課長)
妥当性	目的の妥当性	文化財保護法、市文化財保護条例の趣旨の徹底は市の責務である。指定した文化財の適時適切な保護は文化財を後世に伝えるため必要不可欠である。	4	4
	市民ニーズ	文化財を適正に管理し、市民の関心と理解を深めるためにも必要と考える。		
有効性	成果目標(改善)達成度	コスト面から見て、これ以上は減額が難しく、成果の維持が精一杯である。	4	4
	市民サービス	文化財を市民共通の財産として後世へ引継ぐことは市民サービスに不可欠である。		
効率性	コストの節減	事業費は年々削減され、文化財の維持管理上、必要最低限のところまで切り詰められていることから、これ以上のコスト削減の余地はないと思われる。	3	3

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
妥当性	目的の妥当性	文化財調査事業を適切に執行するために、専門職員を確保する必要がある。

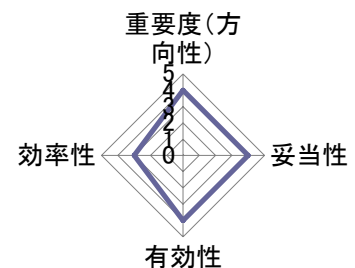
7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた20年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
有効性	手段の最適性	引き続き、塚森古墳の清掃作業を地元自治会に委託し、文化財への認識を深め、生きた教材として後世に引き継いでもらう。
H19→H20予算反映額		

(2) 20年度の実施方針

史跡跡の見学がスムーズにできるよう清掃作業等を継続し実施する。



検討の有無	—
総合指標	21